

今年度の主な特徴

地域とのつながり

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問に、約7割の生徒が肯定的に答えており、コロナ禍で行事等が制約されてきた中でも、例年同様に全国と比べて高い結果となっています(図1)。また「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という質問に関する経年変化では、肯定的に答えている生徒が4年前に比べて約14ポイント高くなっており(図2)、松本版コミュニティスクールや総合的な学習の時間における様々な取組を通して、地域や社会を考えようとする学びの継続がなされていると考えられます。

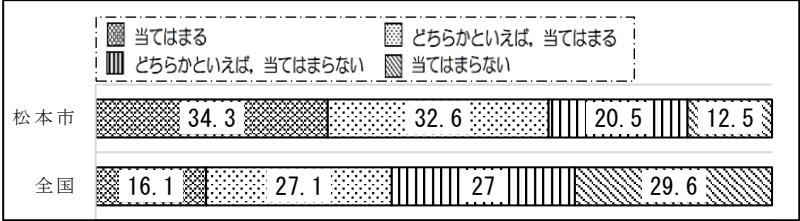


図1 今住んでいる地域の行事に参加している

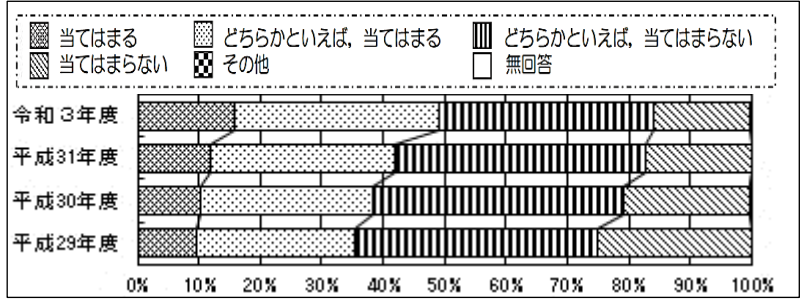


図2 地域や社会をよくするために何をすべきかを考える

主体的な課題解決への取組

「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に関する経年変化では、「当てはまる」と答えた生徒は、3年前に比べて約10ポイント高くなっています(図3)。

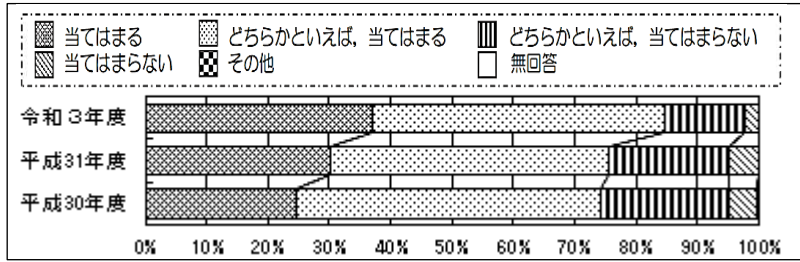


図3 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

全国と比較しても約4ポイント高くなっており、生徒の疑問や問いを授業に生かした主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善が生徒の課題解決への取組につながっていると考えられます。

◇学力状況と生活・学習実態との相関関係

読書に対する関心と正答率

本年度から新たに加えられた設問「あなたの家には、およそどのくらいの本がありますか」では、家庭の蔵書数と各教科の正答数に相関がみられており、本市では26冊以上のどの選択肢においても、いずれも全国の値を上回っており、各家庭の蔵書量が比較的多いことが分かりました(図4)。

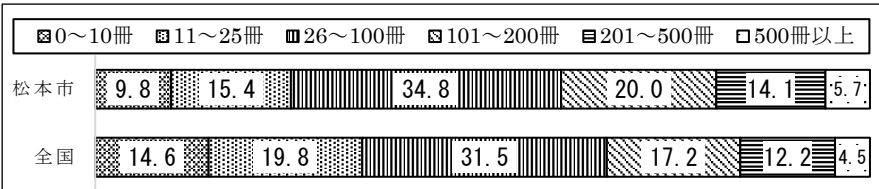


図4 あなたの家には、およそどのくらいの本がありますか

他方、「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の回答では、特に「10分以上、30分より少ない」の割合が高くなっています(表1)。部活動や習い事、

インターネット視聴やテレビゲームなど、放課後の時間の使い方が多様化しています。本市では、朝読書が多くの学校で行われ、生徒会による図書館利用の呼びかけや、地域ボランティアのみなさんによる読み聞かせなども積極的に行われており、その積み重ねの成果が生徒の読書時間の確保や、読書をする習慣につながっていると考えられます。このように家庭・学校・地域の読書環境がさらに整えられていくことは、生徒の言葉に対する感性や表現力の豊かさにつながっていくものと考えられます。

選択肢		生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
			国語	数学
1	2時間以上	6.1	63.5	54.0
2	1時間以上、2時間より少ない	10.7	68.0	58.2
3	30分以上、1時間より少ない	16.5	68.8	62.9
4	10分以上、30分より少ない	25.6	68.5	61.7
5	10分より少ない	10.4	67.4	62.2
6	全くしない	30.5	64.8	58.1

表1 読書時間と平均正答率

対話的な学びと正答率

「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の問いでは、一昨年度に比べ「当てはまる」が約19ポイント高まっています(図5)。

また「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思えますか」の問いについても肯定的な回答が大多数で、「当てはまらない」と回答した生徒に比べ、正答率も10ポイント以上高まっています(表2)。

各校において、深まりのある話し合い活動の実践が進み、小学校から中学校まで系統的に行われていることが、対話的・協働的な学びとその価値を実感することにつながっていると考えられます。

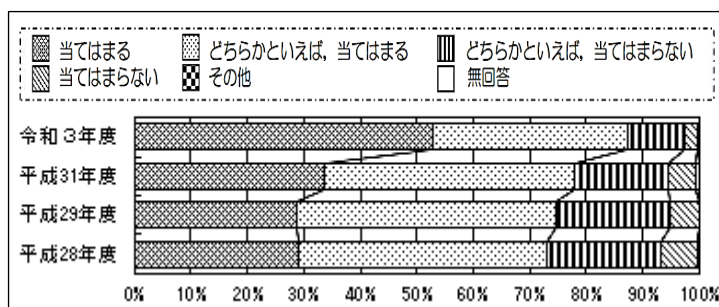


図5 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか

選択肢		生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
			国語(14問)	数学(16問)
1	当てはまる	32.1	70.7	64.6
2	どちらかといえば、当てはまる	44.8	67.2	61.0
3	どちらかといえば、当てはまらない	16.9	62.5	52.2
4	当てはまらない	3.9	56.9	46.2
5	学級の友達との間で話し合う活動を行っていない	2.0	58.4	54.0
その他(選択肢以外の回答や複数回答(複数回答質問を除く)されたもの)		0.1	-	-
無回答		0.2	-	-
合計		100.0	66.9	59.9

表2 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思えますか」と平均正答率

総括

一昨年度同様に生徒は、地域とのつながりの意識が高く、その一員であるという自覚から社会を考えようとする意欲も年々伸びています。これからの予測不能な時代に生きる生徒たちにとって大切な資質といえます。また家庭の蔵書数について、本市は全国と比較してやや多いことがわかりました。「学都」を標榜する本市の向学の気風の一端が伺えます。

一方で、「読書が好き」な生徒が多いものの、読書時間は学校内に限られ、家庭で2時間以上テレビゲームをする生徒は、前回より約14ポイント高まっています。読書も含めた家庭学習における主体的な学びの時間の充実は大きな課題と言えます。

新型コロナウイルス感染症に関連した設問では、休校時であっても規則正しい生活を送っていた生徒は多かったものの、「勉強への不安」を約6割の生徒が感じています。別項目のコンピュータなどICT機器の活用に関する設問では、10ポイント以上全国より低くなっている項目が多く、ようやく本年度より本格導入されたGIGAスクール構想への学校・地域・家庭の連携した取組の充実が期待されます。